

平成 30 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100261		
法人名	一般社団法人 米内地域支援プラザ		
事業所名	グループホーム やまぼうし桜台		
所在地	岩手県盛岡市桜台二丁目18番2号		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	平成30年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100261-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100261-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 整理、整頓、清潔
- ② 看取り対応
- ③ 利用者への寄り添い

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

森林や河川に囲まれた自然豊かな郊外の丘陵地に造成された住宅地に位置し、周辺には、スーパー、郵便局、自治会館、老人福祉センター、中学校などがある。老人福祉センター、児童センターの行事や地域の運動会に参加するほか、中学生の体験学習、看護養成施設のカリキュラムへの対応や地域住民を中庭の夏祭りに案内し、或いは1階のカフェを開放するなど、地域との交流に力を入れている。敷地内には法人のデイサービス、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅などが設置され、デイサービスの看護師の助言や関連施設との避難訓練の共同開催など、相互の連携を図りながら効果的な運営を行なっている。、協力医療機関や看護師の指示、指導のもと、「看取りケア」にも取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場会議で徹底している。	法人の定めた運営理念に基づき、年度ごとに目標を定め、職員会議や申し送りノートなどを通じて、職員間で共有に努めている。利用者に寄り添って意向の把握に努め、家庭的な雰囲気を大切に介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民と交流の機会を頻繁にしている。	自治会に加入し、職員も役員に就任し各種行事にも参加している。隣接する児童センターや老人福祉センターの行事に出掛けているほか、中学生の体験学習、看護学生の実務研修の受け入れ、夏祭りへの住民招待、カフェの開放など、地域との交流に力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の利用者様と地域との交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの取り組みについて、詳細に説明している。	運営状況の報告に加え、関連する課題や今後の動向などを議題とし、委員の意見や感染症予防対策に対する提言など、専門家による助言を加味しながら運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を取りながら、即座に指導を仰いでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を理解し身体拘束について、常に行動している。	身体拘束防止委員会を設置し、専門家による説明会を開催した。今後の会議で具体的な協議を行なうこととしている。玄関の施錠は夜間のみだが、2階エレベータ前のドアは施錠している。看取りケア対象者のベッド柵やセンサーは、家族の同意を得て設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止関連法について理解を深め対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、詳細に理解し活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得の行くまで説明している。質問に対し丁寧に説明。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	左に同じ。	運営推進会議の家族代表からの意見、要望のほか、毎月発行の利用者ごとの広報紙や職員のメモにより、利用者の様子を報告しながら、家族の意向を伺っている。日々の生活の中で、利用者に寄り添い、作業の手伝い、外出などの要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事なことなので、その都度機会を設けている。	職員会議やミーティング、連絡ノート等により、職員の提案等を把握しているほか、業務の中での気付きを取り上げ、備品や消耗品の確保、利用者の入浴時間の変更から職員の勤務時間の変更や資格取得の支援など、業務運営や職員のスキルアップに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左に同じ。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップを常にこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	左に同じ。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	左に同じ。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	あらゆる機会を捉えて関係づくりに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	左に同じ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	左に同じ。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大事なことなので、その都度機会を捉え関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	左に同じ。	家族や親戚の来所時に、利用者との家族写真を撮影し提供している。また、知人、友人の訪問や老人福祉センター行事への参加や地域のお祭り見学を通じ、住民と交流している。2週間に1度の家庭訪問(外泊)は、家族や近所の方との触れ合いの機会でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	左に同じ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	左に同じ。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を軸足を置いている。	家族からの情報提供や日常生活の様子から本人の意向把握に努め、引き継ぎノートや個人毎のケア記録に記載し、利用者に寄り添った家庭的な雰囲気の下で要望等に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左に同じ。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左に同じ。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者と共有して介護計画を作成。	ケアマネジャーが職員への聴き取りによりモニタリングを行い、介護計画の原案を作成している。主任から内容を職員へ説明し、意見、提案を受けるとともに、家族や利用者の意向を把握し、訪問看護師の指導を得て、6か月ごとに見直しを行なっている。利用者によっては3か月で変更する場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左に同じ。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	左に同じ。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	左に同じ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に、月2回、中津川病院の医師に来設して頂いている。利用者の状態を詳しく説明し対応していただいている。	入居時に利用者の意向を確認のうえで、かかりつけ医を協力医に変更し、月2回の訪問診療を受診している。外科、皮膚科などの専門科の受診は、職員が同行している。感染症の予防接種、看取りについては、協力医が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	中津川病院と看護対応について契約し、即座に対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	左に同じ。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前から看取りを実施しており、中津川病院と家族と連携を密にしている。	看取り対応については、入居時に家族等に説明し同意を得ている。重度化した場合は、協力医から家族へ説明のうえで同意を得て、家族の意向に沿って看取りの対応をし、看取り実績もある。現在看取り対応中の利用者が1名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	左に同じ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回、全体訓練を実施している。	行政の指導により、自動通報装置を設置し、非常の場合、消防署、管理者等へ通報される体制となった。避難訓練は、避難場所、ハザードマップを確認のうえ、敷地内の関連施設と共同で実施し、2階から毛布を利用した移動訓練を実施した。10日ほどの食糧を備蓄済みで、発電機の整備は検討中としている。	居室は2階にあり、夜間の勤務者は1名となるため、近隣住民、法人の他の事業所を含めた自主防災組織を検討するとともに、夜間を想定した訓練の実施が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	左に同じ。	個人情報、個別ごとのフォルダーで管理し、広報紙やホームページへの写真掲載は、予め家族の同意を得ている。居室のドアのガラス部分については、利用者の意向により、目隠しをしている。経験や生活歴を大切に、利用者とのコミュニケーションを取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	左に同じ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか難しいことではあるが、希望に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さっぱりした服装に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	左に同じ。	3食の惣菜は敷地内の給食施設で、ご飯、味噌汁、おやつ等は、施設で調理、購入している。サツマイモ、南瓜などの自家菜園の作物も味噌汁やおやつの具としている。利用者は後片付け、テーブル拭きなどの手伝っている。誕生日にはケーキ、夏祭りには流しソーメンが用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当然のこととして、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当施設に歯科衛生師が居るので、利用者に指導し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	左に同じ。	利用者ごとに排泄パターンを把握し、案内、誘導している。介助は見守りを主とし、残っている能力を大切に自立を支援している。排泄の失敗の場合は、トイレでの処理やシャワーで対応し、他の利用者には分からないよう配慮している。夜間のポータブル利用は1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	左に同じ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ローテーションを工夫している。	週2回、午前、午後、利用者の希望で入浴している。入浴を避けたい利用者には、時間調整をして対応している。シャンプー等を準備しているが、希望により好きなシャンプー等を持ち込んで使っている。水虫の方には足湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	左に同じ。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	取り違えることのないよう、特段の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左に同じ。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	左に同じ。	天気の良い日は、周辺の散歩や公園、自治会館まで足を伸ばしている。小、中学校の運動会の見学、地域の運動会での70歳以上の部への出場や、老人福祉センター行事にも参加している。自家菜園での畑作業や家族との外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	難しい問題であるが、金銭については特段の注意を払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左に同じ。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左に同じ。	3方を大きな窓で囲まれ食事用テーブルを配置したロビーは、濃茶とクリーム色で統一され整理整頓が行き届き、利用者はテレビの視聴などそれぞれに寛いでいる。室内は大型エアコンやパネルヒーター、換気扇、加湿器などで、快適に管理され、清潔感が感じられる快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左に同じ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左に同じ。	エアコンや換気扇など利用者が過ごしやすいよう湿度、温度が保たれており、介護ベッド、テレビ、クローゼットが備え付けてある。使い慣れたタンスや小テーブル、時計、人形、仏壇、家族写真など、利用者の意向に沿って馴染みのものが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して自由に、自活出来るよう最大限の工夫をしている。		